

第2回 津市大門・丸之内地区 未来ビジョン策定委員会



開催日時 令和4年9月27日（火）午後2時00分～午後4時30分

開催場所 津市センターパレスホール

出席者 【津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会委員】

辻 正敏、藤牧 和弘、岡田 正幸、若原 暁、川口 敏史、三宅 公子、
寺家 光弘、尾崎 晋、木下 学、川合 正、辻 伸久、川口 範一、
神谷 昭彦、岩田 英里、奥田 博貴、平西 明日香、藤原 弘典、
古澤 忠士、宮田 雅司、福森 稔

【オブザーバー】

小野寺 一成、南木 宏和

【事務局】

都市計画部次長 草深 寿雄、商工観光部次長 小柴 勝司
都市政策課長 酒井 亮、商業振興労政課長 山口 尚利
都市政策課都市整備・新都心軸担当主幹 畠山 和之
商業振興労政課商業振興担当主幹 西出 智康
都市政策課都市整備・新都心軸担当副主幹 山岡 健司
都市政策課主査 吉村 千尋、都市政策課主事 松村 優里

公開又は非公開 公開

傍聴者 0名

議事次第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 報 告
- 4 議 題
 - (1) 未来ビジョンの概要 中間案について
 - (2) エリアプラットフォームの構成、取組実施体制について
- 5 その他連絡事項
- 6 閉 会

議事概要

1 開会

2 委員長あいさつ

3 報告

- ・事務局よりこれまでの取組経過について報告（資料1、別添資料）

4 議題

(1) 未来ビジョンの概要 中間案について

- ・事務局より未来ビジョンの概要 中間案について説明（資料2-1）
- ・事務局より第2回分科会で提案された取組案について説明（資料2-2）
- ・事務局より大門・丸之内地区における実験的な取組の検討について説明（資料3）

委員から発言いただいた主な意見等は以下のとおり。

- ・分科会で出てきた意見の中で、3つの分科会での意見をまとめると、空き家、津城・津観音、交通などの意見に分けられる。より実効性のあるものにしていくということで短期、中期、長期として分けていくのも良い。また、今後の分科会では、空き家をどうしていくのか、津城・津観音をどうしていくのかなど、分科会の枠を越えてテーマごとに集まり、横断的に議論ができるようにするとより実効性があると思う。
- ・商店街では空き店舗で頭を悩ませているので、空き店舗対策として、例えば固定資産税を高くしていくなど、知恵を出し、解決方法を考えて、空き店舗については分科会の枠を越えて検討を進められるとよい。
- ・まちづくりのコンセプトについてはごもっともである。商店街でもこれまでに歴史・文化についてなど色々取り組んできている。
- ・国道23号は片側4車線のため、車は速い速度で通行しており、それにより駐車禁止になっている。商売のために、駐車禁止の解除をお願いし続けている。
- ・資料3にあった取組例については、社会実験としてできることを期待している。
- ・地域住民は高齢化し、国道23号の横断歩道を青信号で渡り切れない状

況であり、青信号の時間も長くするなどが必要であることから、丸之内では車がスムーズに動けなくてもよいと思う。国道の掲示板に、国道23号は通行に時間がかかるように表示するなど、知恵を出して改善方法が出せるとよい。

- ・市もビジョンに基づく取組を継続的に取り組んでいくといった形なのであれば、ビジョンには全国の成功事例なども取り入れながら実現させ、一緒に盛り上げていきたい。5年、10年、20年の計画として進行管理しながら、まちを大きくしていく取組を一緒に進められるとよい。
- ・立町・大門大通り商店街内道路の利活用について、道路のタイルの現状は、大きな車が通ると跳ねてしまう可能性があるため難しいのではないかと。
- ・大門大通り商店街振興組合ではアーケードを取ったあと協議して、大門大通り商店街内道路に車を通すことを決めた。車を通すには商店街の事業として貼ったタイルを剥いで原状復帰させる必要があるが、商店街の予算の関係でストップがかかっている現状である。
- ・商店街では、アーケードは維持するのにお金がかかり、また老朽化もあったため、維持費の面から取らざるを得ない状況であった。道路については、車を通す方向で商店街としては考えているが社会実験後、車を通すということになれば舗装の改善については市と商店街が互いに歩み寄って、市としての協力もお願いしたい。
- ・立町・大門大通り商店街内道路の利活用について、通りを挟んだ目の前のお店に高齢者などが気軽に行けるのが商店街であると思うため、今後歩行者天国を続けてもらいたい。
- ・商店街の各店の前には少し道路にはみ出てもテントを出すなどして賑わっているようにした方がよい。
- ・観音公園について、人が集い、交流、活動できるまちとして、若い人が集まるように、公園の利用、再整備のことも取組として考えていきたい。
- ・にぎわいの創出に向け、誰をターゲットとして考えているのか。どのようなターゲットならお店や市民にとってプラスになるのかを考えていく必要がある。
- ・これからエリアプラットフォームで具体の取組を考えていく際に、この地区のキーワード、目指す方向性をあらわす「ひとつの」コンセプトがあるとよい。
- ・持続可能なまちにするとといったことは重要であり、過去と比べてもPF

1などの事例などもあるため、こういった手法も含めて具体的なことまで描けるとよい。また、継続していくためには主体的にやっていく人がいないと始まらない。主体的に参加する人を育成するということが大事になると思う。

(2) エリアプラットフォームの構成、取組実施体制について

- ・事務局よりエリアプラットフォームの構成、取組実施体制について説明（資料4）

委員から発言いただいた主な意見等は以下のとおり。

- ・エリアプラットフォームという名称は分かりづらい部分もあるため、6文字程度の熟語などで、皆が共有できるように、親しみが持てるわかりやすい名前を検討したい。
- ・これまで分科会では多様な意見が出されている。本委員会でも一緒に歩み寄ってやっていこうという意見が出ており、来年度からはこれらを実践、実行していくことになる。そのため、第3回分科会では実行していくためにはどうしていくのがよいのかを議論していくことを各分科会メンバーに伝えておいてもらいたい。
- ・エリアプラットフォームについては先進事例も踏まえながら考え、動きやすい体制としていきたい。

オブザーバーから発言いただいた主な意見等は以下のとおり。

- ・沢山の方々が集まり、大門・丸之内地区のことを議論しており、改めて、皆さんの関心の高さを感じた。この地区が沈むと津市全体が沈むというほど大事な場所なのだということを感じた。
- ・沢山の意見から今後の方向性をまとめ、分かりやすく共有できる将来像を設定し、将来像の実現に向けてはロードマップとして5年、10年、20年に分けて整理していくことはよい。
- ・専属チームを編成することも重要であり、市が当地区の専属チームをつくることを検討するというに、市としても踏み込んだものにしていくことを感じた。
- ・都市計画の手法を使ったまちづくりについて、都市計画を変えるだけでは活性化しない。民間と市民といった人が動かないとまちは何も変わら

ない。

- ・都市計画の規制・誘導策では、大都市と違って地方都市では民間開発のポテンシャルは高まらない。まずはエリアの価値を高める事業を行うことで、民間開発が誘発されてくる。そのため、地方都市では公園を Park-PFI でリノベーションする、商店街を公園化、観光地化する、敷地がまとまれば図書館を整備するなど、民間開発を誘発するものを最初にやらなくてはならない。
- ・自動車、バスなどの交通手段について、バスのデザイン、低炭素社会のための水素バス、自動運転バス、小型モビリティなどの交通手段も一体的に進め、津駅との関係も含め、津市の中心市街地としてのビジョンを官民が共有できるものを作っていけるとよい。
- ・今後、どのように取り組んでいくのか、未来ビジョンが目指す将来像を実現するために、これまで官民がやってきたこと、民でやってきたこと、官でやってきたことを、今回は仕切り直して、官と民で目指すべき将来像を共有し、今一度、取組みを考えてもらいたい。
- ・各組織の方々が自分事で行き組んでいくことを考え、それを共有し、今いる人だけでなくエリアに関わる人全員でこのエリアで行き組むことを描き、議論に参加していない人にもわかりやすい表現でまとめていけるとよい。
- ・本気で取り組んでいくことが大事であり、今までと同じではいけない。
- ・ビジョンをもとに計画を実行し、必要に応じて見直しをしていくことになるが、何ができたら見直し、改訂していくのか、数値目標も設定し、達成状況を把握しながら今後は進められるとよい。

5 その他連絡事項

- ・第3回目の策定委員会については12月頃に開催を予定
- ・第3回目の分科会については、10月下旬に開催を予定

6 閉会